

＜団体紹介＞

当センターは、川崎市内の学力不振や不登校の状態にある子供たちに直接指導・援助の手を差し伸べ、側面から学校を支援することを目的に、平成16年4月に設立された。設立2年目からは、文部科学省委託研究「いじめ対策等生徒指導推進事業」を受け、「こどもサポート」を居場所に行っている子どもの直面している、いじめや不登校等の課題の解決・改善に向けた実践研究に取り組んできている。「子たちに力を」の法人設立の理念に基づき、平成29年度の活動方針として、次の3点をあげている。

- ① 基礎基本を重視した学習支援の充実と多様な体験活動の実践
- ② 家庭・学校・地域および関係機関等との連携と相談活動を中心とした社会福祉活動の充実
- ③ 一人ひとりの児童生徒の自立と、心豊かに生きていける力を身に付けるための支援

これらの方針に基づいて、「教育・福祉に関する相談事業」「適応指導に関する事業」「特別支援教育に関する事業」「学習支援に関する事業」「体験活動に関する事業」…等々、様々な事業に取り組んでいる。

「学習支援に関する事業」の中の一つとして、平成25年1月より「幸区地域課題対応事業委託」を受け、週1回、外国につながる児童生徒の日本語力や学力向上のため、日本語指導や教科指導を地域のボランティアとともに支援を行っている。また、平成26年度より、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委託を受け、教育委員会や行政機関などと連携、協力しあい、地域の外国につながる子どもたち、およびその保護者、地域に住む外国人市民等の日本語学習を地域のボランティアとともに実施している。



「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラムB

第1日目
パネル展

事業実施概要

事業名称	ともに学ぶ日本語支援事業			
地域の課題	①川崎市の外国人等市民は 120 カ国以上の国籍、分散、コミュニティも少ない。外国につながる子どもの数(0~4 際)が増えているが、多文化環境での子育てなどの情報発信が十分でない。②地域の日本語学級では話すことが中心で、読み書きの機会が少ない③地域日本語教育の現状や課題の発信できていない④外国人等市民の多文化共生のまちづくりの担い手として、活躍できるような場の提供や日本語のさらなる学びの場をつくる必要がある			
事業の目的	地域で外国人市民が排斥されることがないように、対話型の活動を通して、市民同士の関係性、さらに行政関係機関との関係を深め多文化共生のまちづくりに寄与する。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	『もともとと伝えよう！自分の気持ち』対話して書くプロジェクト	名称	『やさしい日本語でコミュニケーション』プロジェクト
	目的	対話型の活動を通して自己表現の日本語を学ぶ。デジタル・ストーリーテリング(DST)作品の上映会・対話会で地域住民や行政・教育・福祉関係者等と課題を共有する。	目的	市民向けのお知らせを『やさしい日本語』で学び、情報を読み取る力や書く力をつける。地域住民や行政等職員は『やさしい日本語』でコミュニケーションをとることをめざす。
	内容	A 話して書くワークショップ:学習者も日本語サポーターも自分のことを語り文集を作成する。 B DST ワークショップ:経験や出来事をもとに自分物語を書き、自分の声で録音、画像編集し DST 作品を制作する。上映会・対話会を実施し、地域住民や行政・教育・福祉関係機関の職員とともに課題について考える。	内容	A やさしい日本語で学ぶ:外国人等市民と地域住民がリサイクルについてやさしい日本語で学ぶ。 B やさしい日本語研修:行政関係機関等の職員が外国人等市民と市民向けの情報をやさしい日本語に書き換える。 C 親子教室:就学前に身につけておく習慣や集団行動を学ぶ。保護者は日本の学校文化について学ぶ。
	対象	川崎市とその周辺に居住する外国人等市民・日本人市民とその子ども	対象	川崎市とその周辺に居住する外国人等市民・日本人市民とその子ども
	時間	1 回 2.5~3 時間×22 回(全 58 時間)	時間	1 回 1~3 時間×8 回(全 17.5 時間)
	人数	75 人	人数	103 人
連携体制	川崎市国際交流協会、川崎市市民文化局外国人市民施策担当、川崎市教育委員会、川崎市立 M 小学校、幸市民館、幸日本語学級、にほんごワールド、多文化共生保育研究会他			
成果と課題	日本語学習者は日本語サポーターとの対話活動で、自分のことを表現したり、生活に必要な情報や自分にとって必要な語彙や文型を学ぶことができ、学習意欲の向上もみられた。日本語サポーターも、対話活動を通し思いを聞いたり、考えを知ることで、お互いを深く理解することができた。日本語学習者が翌年は日本語サポーター、そしてスタッフとして活動に関わることで、母語を介しての対話型の活動はより安心できる場となった。外国人等市民とやさしい日本語ワークショップは川崎市職員の他、区役所、保育士、子育てボランティア研修等へ広がりがみられた。			
参加者の皆様へ一言	この活動に関わった全ての方がサポートのあり方や自分の活動をふりかえったり、自分のことも考える機会になりました。DST 作品は視聴した方も考えるツールになります。今年度の上映会は 11 月 23 日(川崎市国際交流センター)の予定です。是非いらしてください。			

